

惜別への序章 整備進むキャンパス

女子大と共に歩んだ永国寺



▲左実験棟、右体育館
▶体育館南の駐車場付近、H29年に「地域交流広場」記念モニュメントが建て癒しの一角がどんな風景になるか、楽しみは尽きない



▲正面玄関付近。風景に馴染んだ樺は、昭和24年の開学当時植えられた



第48号

しらすぎ会総会は
5月の第3土曜。従って今回は
2015年5月16日

●永国寺キャンパスが生まれ変わることは、これまでもお知らせしてきた通りですが、「行ってみたら、影も形もなかった」などということなく別れを惜しんでいただけのよう、今号では2014年の晩夏の風景をお知らせ致します。

建設から45年を経過

建設当時の姿を残す北敷地の例えば実験棟が建つたのは昭和42年12月だし、玄関のある管理棟や、文化学部のある講義棟は43年10月、講堂兼体育館の落成は44年(1969年)9月で、すでに丸45年が経過した。

この永国寺の地に開学

ただ、同窓生として常に意識しておきたいのは、この永国寺の地に、敗戦間もない昭和24年4月、「女子教育の向上発展を図るべき」と、高知女子大学が開学した!ということだろう。開学当初は家政学部だけの単科大学だった。

当時は、前身の高知県立女子専門学校(女専)の建物をそのまま受け継ぎ、旧日章航空隊兵舎を移築したバラック建てと、

お別れに...

●永国寺キャンパスと別れを惜しみませんか。「ホームカミングデー」が企画されるかも知れません。しらすぎ会のホームページなどで、決まり次第お知らせします。(高知県立大学同窓会しらすぎ会)

通称「本建築木造」(女専本館)化学実験棟、階段教室だった。

「しらすぎ」の舞い美しい杜

この木造教室の最上階二階からはお城が望め、緑の杜には美しい「しらすぎ」が舞っていた。さぞ在校生には印象深い風景だったろうが、この美しさが同窓会「しらすぎ会」の名前の由来になる。

「しらすぎ体質」強化の要因

特筆すべきはもう一点。貧乏臭の厳しい財政事情を受け、「女子教育は贅沢」ゆえに廃学の危機に襲われた昭和29年当時の同窓会。周りを巻き込んで「高知女子大学の存続を勝ち取った」しらすぎ会の活動。これが、コトあるごとに語り継がれ、大学後方支援をこそ真っ先に考える同窓会しらすぎ会の体質として強化されていく大きな要因になったのではないだろうか。

厳しい財政事情が襲う運営

さらに、女子大存続を勝ち

取ったうえに国文学科と英文学科の設置認可まで獲得できた大学にとって、次なる課題は、「規模に相応しい建物」ということになるだろう。在学生が増えれば建物が必要なのは必然で、またも厳しい財政事情と闘う大学運営の波が襲う。

『高知女子大学三十年史』には、大学の建物建設のために資金集めに奔走する、何と同窓会の姿が記されている。

—昭和31年、文学部が増設され、学生数が年を逐って増加の一途をたどるにおよび、校舎の不足は焦眉の急を告げ、大学教育運営上の重大な支障が生じはじめた。(中略)第一期工事は、昭和34年4月に完工した。しかし、同じ頃同窓会誌「しらすぎ」の校舎増改築寄附金に関する報告は深刻である。

(中略) 図書館、集団給食設備、化学実験室、階段教室と増改築されねばならぬ工事が続出しておりますので、寄附金は半永久的に続けねばならぬ実状にあります。

事実、関係者は、昭和36年に第二期工事が竣工した後にも、なおひきつづき施設拡充のために醗金(拠金)し協力しあっても少くも充実させるための貧者の一燈を灯す努力

を惜しまなかった。筋金入りの寄附金集め

ところで、高知県内に同窓会支部が初めて作られたのは昭和32年7月だったが、支部結成のきっかけが、まさしくこの「施設拡充のために献金(拠金)し協力しよう」ことだったのだ。しらさぎ会の寄附を集める行為は筋金入り、半世紀以上を経てもなお健全といったところだろうか……。

建物充実へ向けた歴史

さて、設置基準と見合う建物の充実を目指した工事の歴史を再び辿ってみる。



▲実験棟が建った時に業者から贈られた桜。幹もこんなに成長。花見ときは春休み中?

▲南西の角付近の眺め。生け垣の塀は高知女子大学の開学(昭和24年4月)以来の伝統。町並みに緑が優しく映えている!?



▲実験棟の東の端と手前に作法室は、東北の角の辺り

▲東通門付近、体育館北はいま職員有料駐車場に。左の銀杏も上のクスノキ同様、高知大空襲を知っているほど古いらしい

昭和39年3月、高知女子大学教職員組合が県当局、議会に「県立大学発展のための要望書」を提出。翌40年7月5日、女子大学全面整備拡充問題は正式に教授会に提案され、同年9月には県並びに県議会に陳情書が提出される。

それに対して県の案が内示されるのが一年を経過した昭和41年8月26日だった。大学はこの内示案に六百坪を加えて復活要求することになるが、この要求実現のために、当時の田村良平後援会長の「お力にあずかる」ところ大なるものがあった」ことは、前述の三十年史にも「看護学科三十

年史」の和井兼尾名誉教授の記述にもある。いわく、田村良平後援会長は、「教授会側に何ら干渉することなく、完全に大学の自治を尊重し、真面目に大学のあるべき姿を追求してスケールの大きな案をもってむしろ大学側をリードした時もあった」のだそうだ。

後援会長が、建物のありようを含め、「完全に大学の自治を尊重」し、「大学側をリードした時もあった」とは……。なぜそれほどまでに、と疑問に思われる向きがあるかも知れない。実は、この田村後援会長に対しては、建物の貧相さを嘆いた勇敢な同窓生の「直訴」があった、という。誌面の都合で割愛するが経緯は『母校の建物業史』(松崎淳子著)に詳しい。

不思議なパワーの源

多くの同窓生にとって、学び舎はすでに存在するものがあり、そのなかでいかに過ごしたかが思い出に繋がるのだろうが、草創期を知る諸先輩方は「建てる」ことに関わり、どんな想いで募金し、木を植えたか……。

永国寺キャンパスへの思いの丈を想像することは、あとに続く同窓生にとっては過ぎ去った日々を肯定し、いまこのときをなお大事にしようと思わせる不思議なパワーを湧

取り壊しの予定

かしてくるようだ。このような歴史を持つ実験棟と講義棟、これに管理棟も含めての取り壊しが、とうとう来年平成27年5月から9月に予定されている。その翌年28年11月から29年2月にかけては体育館が取り壊され、食堂や部室のある学生会館は、29年9月から12月にかけて、とまっている。

なお、本年5月に改修の始まった南学舎は27年1月末に工事終了予定となっている。また、28年10月から29年6月にかけて現在の図書館が学生会館として改修されることも決まっている。



▲南門付近(2014.09)。殺風景だからと山崎伸子さん(生活科学科2回)が昭和27年植えたメタセコイアも健在



▼東の運動場は工事中、本部棟・講義棟(2014.9)

▲左が講義棟、正面に管理棟、駐輪場も広がった

▲南学舎は改修中(H27年1月末、工事終了予定)

※日程は予定

よろこびこそ先輩後輩の皆さん

生活に関わる苦勞とやり甲斐

今私の大切な財産

現在、社会福祉法人「長い坂の会」の職員として勤務しています。特別養護老人ホームのケアワーカーとして介護の現場に、社会福祉士の資格を生かし地域高齢者支援センターの相談員として個別訪問活動や地域活動への参加などに関わらせていただきました。幅広い分野で高齢者ご本人やそのご家族だけでなく、周りで支えてくださっている地域住民など大勢の方々と出会い、多くのことを学ばせていただいたことが、今の私の大切な財産になっています。

具体的に「支えたい!」

産休・育休の間に「地域の中で高齢者の方やその家族の方を支え



仕事とは直接関係ありませんが、私の一押し(笑)の写真です、長女と(2012.9.28)

退院後の一人住みの「暮らしやすさ」を見つける話し合い

ている人はたくさんいる。高齢者の在宅での生活を極めて具体的に支えるためのケアマネジャーになりたい」と考え、生まれたばかりの我が子を横目にケアマネジャーの資格試験の勉強を行いました。そして産休明けから同法人の「高知市在宅介護支援センターあさくら」のケアマネジャーとして働いています。



その人らしい選択

実際に在宅で生活する高齢者の方たちに接する中で、今まで見えなかった「その人の生活に関わること」がいかに複雑で難しいことであるか痛感します。

生かされている悦びに乾杯!

学ぶ楽しさを大学で

卒業して五十年。そんな折、関東支部同窓会に同期の南裕子学長出席との案内を戴き、久しぶりに出席しました。ご活躍は存じておりましたが、何の振れもなく一貫して歩んでこられたことがよく分かりました。では自分はどうと、卒業と同時に公立中学の教員



都立美術館の女流画家協会展、130号の作品 ※カラーでお見せできないのが残念(広報担当)

思っても、本人はそれを選ばないこともあります。「なぜ?」「どうして?」と、とまどうことも正直多々ありますが、それが「その人らしい生き方」の選択なのだということに改めて感じています。

一人一人の利用者の方に関わる中、高知市内の色々な場所、高知県立大学の卒業生の方々に助けられていきます。「県立大つて地域に根付いているんだ」と頼もしく感じています。これからもよろしくお願ひします。

たくさんさんの戴き物

いま、一つの活動として地元の美術館で小学生の美術鑑賞のお手伝いと、大人向けのギャラリートークのボランティアをしています。小学生は思いがけない見方をし感性をくすぐってくれ、たくさんさんの戴き物をしていきます。日々、勉強ですが、それがまた心地よいものです。



美術館のボランティア室で 原稿作り

絵があればこそ

春の都立美術館の女流画家協会展、秋の都立美術館の独立展に出品しています。これも四年間で培われた学ぶ楽しさをゆったりでも挑戦する姿勢が身についてきたお蔭だと思ひます。また、同期の友の励ましにも支えられています。

両親、夫の介護のときも絵があったから明るく乗り切れた思いがします。七十過ぎると思ひ出の中に生きると云われますが、まだまだ後ろは見ていられませんが、ゆつくりのんびりの一歩ですが、前へ進んでいきたいと思ひます。

最近、新しく陶芸を始め、たくさんさんの土を手に入れました。これも全て学生時代のモチベーションを高める生き方に繋がっている気がします。ここに生かされている自分があることに乾杯!

愛媛県支部

H26.6.22 (日) 11:30~14:30、八幡浜
センチュリーHイーターで、25名参加

26年支部総会は、第一部を親睦会、第二部を山崎美恵子名誉教授の講話として開催。若い会員も多く、嬉しかった！

新形式！

●懇親会ではお互いに打ち解けて話せましたし、DVDの映像はキレイで大学の様子もよく分かりました。

美恵子先生のご講話はゆっくりじっくり聴けました。文化学部設立のお話を中心に、民主的運営を心がける同窓会しらさぎ会のことや、永国寺キャンパスに建てる記念モニュメントのこと等、大学をめぐる近況を実感できました。

出席者からは、①本年の二部形式の会の形も良いのでは？②近年にない充実した、盛大な「しらさぎ会」になったのでは！③若い世代、とくに南予の会員が参加してくれて嬉しかった。④料理がおいしかった。⑤楽しくて充実した会だった。⑥会終了後、道の駅「みなと」へご案内いただいたが、このような配慮が嬉しい。施設見学ができ、特産品を見たり、買い物も楽しめて良かった。八幡浜市を知る機会ともなって良かった！

などの感想をいただきました。

総会は6月第4週の日曜日に決めているので、次回27年は6月28日です。場所は松山市の予定で、幹事は赤松信子さん、漢那浩子さん、伊賀上睦見さん、アドバイザー福岡恵美子さんの予定です。よろしく願いいたします。(平成26年度幹事 片倉紀子/平家多鶴子/支部長 門田洋子/平家多鶴子記)

香川県支部

H25.11.16 (土)、高松国際ホテルで、23名参加

報告は皆様に！

●受付の段階から「お久しぶりです」「お世話様です」「お元気でしたか」など、早速に話が弾みます。本部から寺内アヤ子名誉教授にご出席いただきました。総会案内は会員464名に発送、158名(34%)から返信がありました。昭和24年に女専を卒業された大先輩から平成の卒業生まで出席者は幅広く、同窓会ならではの「絆」を感じます。寺内先生からは資料を元に、高知県立大学の現状やしらさぎ会の活動内容について丁寧にご説明いただきました。また、高知女子大学発祥の地記念モニュメントや記念碑の建設については会員からご質問やご意見をいただき、母校に対する熱い想いを改めて、今さらながら感じさせられました。

続く会務報告や会計報告、自己紹介など進行はスムーズで、ユーモアを交えた笑いあいの和やかな雰囲気になることができました。香川県支部は川田昭子元支部長をはじめ、これまでの役員の方々に会の発展にご尽力いただき、今日に至っています。支部総会は「同窓生としての絆」を深める唯一の場になりますよう、今後とも役員一同、心をこめて開催していきたいと思っています。参加できなかった方々には平成26年1月に報告しました。この報告も絆を深めるため今後とも継続します。27年は高松市で開催予定です。多数の方々のご参加をお待ちしております。(支部長 嶋村洋子)



母校の現在

※12,9,11面もご参照ください。

永国寺キャンパスの東隣りの運動場には、来春(平成27年4月)の竣工を目指して、本部棟・講義棟の建築が急ピッチで進められています(※2面の下の写真)。

●変わる永国寺キャンパス

- ①建物、延べ床面積は今の1.8倍に！
- ②定員が増えます。
昼間の文化学部の定員 80人 ×4
→県立大文化学部の入学定員 120人 ×4に
→工科大経済・マネジメント学群の定員 160人 ×3に
- ③夜間の高知短大は、4年制に！
文化学部(夜間主) 30人 ×4
- ④大きく変わる文化学部、
現行3専修(文学、文化創造、言語コミュニケーション)

- 27年度3系に
- 1.言語文化系(領域は4つ)
英語学、日本語学、国際文化、日本文学
- 2.地域文化創造系(領域は6つ)
地域文化、観光文化、現代法文化、地域づくり、観光まちづくり、生活法文化
- 3.文化総合系(夜間主コース)
学士(文化学)、3系10領域

●オープンキャンパスで地域と

①当初の実施予定は2014.08.03(日)。ところが、まだ記憶に新しい台風11号による「避難勧告」が、高知市内全域に同市災害対策本部より出されたのが午前10時45分。

▼永国寺キャンパスで



②仕切り直しで08.31(日)永国寺、池、両キャンパスで、盛会裡に無事終了！

▼池キャンパスによるこそ！



在学生とも盛り上がり...



▲来年の文化学部も安泰!? 新学部の説明会を前に(撮影は永国寺事務室竹田良和主事)

しらさぎ会各支部だより



相手のペースを尊重

利用者自身のテリトリーの中に

否定からは入らない
それらの思いは働いていく中でも大事にしており、患者さんや同僚、後輩に対しても、否定から入るのではなく、まずはその人の思いを受け入れることを念頭に置いています。
現在、訪問看護師として働いていく中で、人の家の中で看護を展開していくことの難しさを感じています。

はこれなのではないかと思いましたが、それを感じることが出来たのは、実習で先生が、私の考えることや行おうとする看護に対し、見守りながらも評価をしてくれたこと、また同じ実習メンバーの間で活発に意見交換でき、自分の意思を伝え、受け入れてもらえたという経験があったことが大きかったように思います。

精神科へのきっかけ
私は初め、養護教諭になるために高知女子大学に入学しましたが、3回生の精神科の実習をきっかけに精神科看護師になることを決めました。卒業後丸8年過ぎましたが、精神科ですっと働いています。卒業後すぐは大阪の精神科単科の病院の、急性期病棟で約6年働きました。その後、地元高知に戻り、現在は「訪問看護ステーションポルチカもり」で訪問看護師として働いています。

ありのままを受け容れる努力

佐野理香さん(看護学科5回生 平成18年3月卒業)



「楽しい仕事」の一端です

この夏は、パリでの仕事が長引き、日本の夏をあまり経験しないまま、季節が流れたように感じます。振り返れば、大学卒業とほぼ同時に渡米し、大学の学びの続きのように料理学校に通い、一方で駐在日本人向けの料理教室を開き、ワシントンポスト紙のフードコーナーやシェフのアシスタントを務めました。

料理の世界でコツコツ頑張る

公文睦子さん(家政学科25回生 平成4年3月卒業)



いまの仕事の原点
た。これが今の仕事の原点です。帰国後は、ウエディング関係の仕事を中心に県外へも飛び回っておりました。しかし、仕事と家庭との両立に悩んだ末、料理の仕事に一度ピリオドを打つことにしました。その後はほぼ専業主婦。でも、こんなお料理教室をしてみたい!こんな商品を作ってみたい!など、いつも頭には妄想を描いていたように思います。10年が過ぎて35歳に手が届く頃、「命を取られるわけじゃない、やらずに

専業主婦から再出発

後悔するより思い切ってやってみよう」と私なりに一念発起。ただ、就職経験もなく、長い間の専業主婦生活からの遅いスタート。そんな不安な気持ちで頑張っただけで消し去る中、私を助けて下さったのがたくさんの方々の先達、先輩の皆様でした。
大学との関わりの中で
お料理教室にも、「同じ女子大よ」といらして下さる方。その言葉聞いていただけでほっとしました。外部の仕事でも、多岐に活躍されている卒業生がどこから現われ、励まし、助けて下さいました。また、2011年には、家政学部(生活デザイン学科)の最後の卒業生達の授業に一年間を通してプロデューサー役として参加させていただきました(井本正人教授・生活調査実習)。私の学生時代の恩師でもある井本正人先生、川口順子先生のご指導のもと、先輩達と再び学び舎で過ごし、その取り組みに評価をいただいたことは、一生忘れられない大切な仕事となりました。
「石の上にも10年」と思って頑張つて」と励ましてくれた母の言葉の10年目が来年了。これも全て、学生時代から、ある意味「世間知らずでぶっ飛んでいた私」を受け入れ、温かい目で見守り、育て下さった周りの方々と高知の風土のお陰だと思っております。これまでの全てに感謝し、この先の10年が更に充実したものになるよう精進したいと思っております。

広島県支部

支部総会は10月25日(土)13時から

永尾朱美会長をお迎えして
RCC文化センター ☎ 082-222-2277 で

●支部会開催案内の準備を始めた時に飛び込んできた、土砂災害のニュース。あまりの被害の大きさに言葉もありません。同窓の皆さまのお宅はいかがでしたでしょうか。被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

二年に一回開催しています支部会の案内をさせていただきます。

今回は久しぶりに広島市内での開催で、10月25日(土)午後1時から行きます。ちょっと遅めの昼食をいただいて、会を進めてまいりましょう。私たちの高知女子大学が男女共学となり、校名も高知県立大学と変わって、三年が経ちました。母校がどのように変化したのか、これからは…? など永尾朱美会長をお迎えしてお話を伺います。大学紹介DVDも観賞します。また永尾会長からは「土佐の食」をテーマに、お話しいただけることになっています。

会場は中区橋本町のRCC文化センターです。JR広島駅南口(在来線側)から徒歩で約10分。広島電鉄銀山町電停からは徒歩5分のところ。駐車場もあります。近くには、名勝縮景園や県立美術館、少し足を延ばせば広島城が。また、繁華街・八丁堀までは、徒歩10分足らずの距離ですから、支部会の開始前や後にも色々お楽しみいただけると思います。

では、10月25日にお会いしましょう。

(支部長 田中めぐみ 国文学科9回生)

山口県支部

大人の遠足

●2014年の秋のミカン農園の様子▶
を今西先生に送っていただきました!
収穫が楽しみです〜♡♡♡

●二年に一度の支部総会なので今年の開催はありませんが、昨年の総会の折に今後の活動の活性化について話し合いました。

平成21年に山口県支部が発足し、はや5年。出席者の顔ぶれも定着化しつつある中で、これまでの食事をしながらの近況報告に加え、何か魅力あるイベントを企画してみようということになり、名誉会員であり恩師でもある今西一實先生のミカン農園でのミカン狩りをメインにした「大人の遠足」が第一候補となりました。

過去三回は県央部での開催でしたが、ミカン園は東部(周防大島)にあり、出席しやすくなる方もいれば遠くなる方もあって、実現するには多くの懸案事項がありますが、まずは今秋、東部にお住まいの会員さんにご協力をお願いして「予行演習をしてみたい」と思っています。

来年の11月に四回目の支部総会を開く予定ですが、一人でも多くの同窓生に参加いただけるよう、楽しい大人の遠足が実現できるよう知恵を絞ってみようと思います。同窓生のみならず、ぜひ一度参加してみてください。学年も学部も違う、会ったこともない同窓生ですが、同じ学び舎で青春を過ごしたということだけで不思議に懐かしく、高知で過ごしたあの輝いていた時代の思い出話は尽きることがありません。来年の秋、みんなで青春しましょう。(支部長 岡村志津枝 国文学科13回生)



九州支部

H26.3.2(日)、ドルフィンポート
2階「ポルトカーサ」で、14名参加

大学時代に戻る喜び



●2年に一度開かれている九州支部総会は、前回の福岡太宰府に続き、本年平成26年3月2日、鹿児島市、錦江湾と桜島を臨める木造2階建て複合商業施設ドルフィンポートでの開催でした。参加者一人一人が学生時代の思い出と近況報告を行ない、川口順子先生からは高知県立大学の現状を写真やスライドでご説明いただきましたし、帯屋町の風景も映し出されました。事務局山川さんから予めお送りいただいていた大学PRのDVDや大学案内も含め、大学時代に戻ったように皆さん喜び、懐かしかったようでした。会ではその他、5月に予定されている同窓会総会への出席者が二宮和嘉子さんと決まりました。

2年後の開催場所は福岡県とし、幹事として、田中美美江さん、中村友子さん、鎌水千寿子さんを中心に皆さんへのご案内をお願いするという事で散会となりました。今回は福岡でもあり、集まりやすいでしょうから、ぜひ大勢ご参加ください、お待ちしております。(支部長 宮川麗子 看護学科14回生)

岡山県支部

特別な絆

●今年も高知から宮田福先生にご出席いただき、8月24日に岡山県支部総会を開催しました。新しい方3名を加え、合計15名での会でした。(4名の出席予定者の急用欠席は大変残念でしたが…)

再開して3度目になるので、スムーズに進み、少しずつ定着してきていると手応えを感じ、それを嬉しく思います。今回は30代から、福先生達同級生の「ご先祖様トリオ(笑)」まで幅広く集まりました。宮田先生には今回も大学の現状について、また、「身体、健康、食品の為になるお話」をいただきました。土佐弁が「ホンマに懐かしい」という声が多く、しっかりとこの夏もまた、高知に思いを馳せることができました(笑)。

宮田先生、永原さん、菊井さんの同級生はとても仲がよく、それが微笑ましく、何十年たっても変わらない大学での縁は特別な絆なんだと、その姿を美しく思いました。

出席者の皆さん一様に話が上手でパワフルで、還暦を過ぎても現役で働かれていたり、地域貢献されていたり、等々、皆さんそれぞれの環境で精いっぱい頑張られていることが伝わり、女性の力強さをつくづく感じます。

とくに大先輩である60代以上の女性が家庭を持ちながら仕事を続けることは、とても先進的で素晴らしいことであり、同時に、とても大変で難しいことだとも思います。それを乗り越えて頑張ってきた女性の力強さや魅力を私は大先輩の皆さんから感じ、その先輩方の姿に励まされ、私も頑張ろうという明日への意欲と力をいただけた感じがします。同窓会で先輩方に生きる指針を示していただけているように感じます。若い世代は、仕事や子育てでなかなか時間がとりにくいとは思いますが、ぜひともご出席いただき、先輩方からのパワーを直接受け取ってもらえればと思います。来年の総会は2015年8月23日(日)、今年と同じメルパルク岡山レストラン「ミザール」で11:30~。会費2,500円の予定です。皆様のご出席をお待ちしております。(久保さとみ 英文学科41回生)



関東支部

ハイアットリージェンシー東京で、
53名参加

親睦の輪!



●2013年11月17日に、第17回しらさぎ会関東支部総会・懇親会ならびに講演会が無事開催されました。南裕子学長より、「高知女子大学から高知県立大学への変身~伝統を活かした未来づくり~」というテーマで、大きく躍躍していく母校の様子を、映像や資料も交えてお話いただきました。地域との共生や貢献をめざすというお考えにも感銘を受け、興味深くお聴きしました。

本部の永尾朱美会長からは、記念モニュメントの建設についての経過報告などをお伺いしました。完成すれば、ぜひ訪れたいと思います。

会は終始なごやかに、楽しい歓談が続きました。諸先輩方のエネルギーなど活躍に大きな刺激を受け、「ぜひ次回もまた」との約束を交わしての閉会となりました。次回は2015年11月を予定しております。多くの方々のご出席をお待ちしております。しらさぎ会が皆様の親睦の場となりますよう、引き続き頑張って参ります。(新支部長 山崎和子 国文学科14回生)

東海支部

H25.11.9(土)、ANAクラウンプラザHグランコート
3階「たん熊 北店」で、11名参加

平成26年は
11月8日(土)昼
いつもの「たん熊」で!



●初めて参加して下さった方が2名おられました。生活科学科2回生の土居さんはパーキンソン病にもかかわらずご出席くださり、「食べることは生きること」だと、食について力の籠った話をされ、この日に合わせて高知から届けられたチャーシュー(隼人瓜)をレシピとともに配られ、話も盛り上がりました。

総会に代議員として出席された山本さんからは総会概要が報告され、永国寺キャンパスの交流広場に建てられる記念モニュメントについての説明もありました。

その後の近況報告では、他の会では聴けないような内容の深い話に皆さん心打たれ、実りの多い会だと実感しました。『会報しらさぎ』にも載った高田さんが翻訳された草稿を持参され、回覧しました。素晴らしい作品です。出版が楽しみです。若い層の出席者を何とか増やしたい!と、これも相変わらずの課題です。来年に向けて知恵を絞りたいものです。

(幹事 田中智恵子 国文学科10回生)



四年目を迎えた代議員制総会。開会に当たり学歌斉唱。高らかに響く「自由の思想」芽生えし土地に真理の〜」

理事会が計8回開かれたこと、東北支援ボランティア参加学生(第1期2期で計49人)への交通費補助、などが報告された。26年度の活動計画、記念碑建設

「会報が楽しみだが発行数が会員全員分でないのはなぜか」には、会長が「会員の中で宛先のわかる人を対象としている」旨を説明。④「物故者等の把握はどのようにしているか」には、事務局より、「把握しきれないの

東日本復興支援 しらさぎ会は連年交通費の補助 小林美輪(文化学部2回生)さんが報告。「報道で見聞きしている内容」と現状の違いの大きさに驚いた。東京五輪開催が復興の第

意見交換会 支部総会の参加者をいかに増やすかが、例年のごとく各支部共通の課題。若手の参加は若手の企画で、案内状に手書きのコメント、名簿の役割大など、幹事への期待の大きさを確認し合った。が、いずれにしても「関

大きく変わる文化学部 学歌斉唱に続き、ご公務で欠席された南裕子学長に代わり、野嶋佐由美副学長が講話。「地域社会の更なる向上に寄与する大

永国寺キャンパスとのお別れ ホームカミングデーについては、文化学部からの呼びかけで「しらさぎ会」も広報等協力したが、「最新情報では大学全体の取り組みが検討されている」と、会長が報告した。

平成26年度の予算案の承認 異議なく賛成多数で承認された。(※次頁10面ご参照下さい)。

永国寺の将来像 県民に開かれた大学の具体例 パワーポイント27枚分の土居

意見交換会 支部総会の参加者をいかに増やすかが、例年のごとく各支部共通の課題。若手の参加は若手の企画で、案内状に手書きのコメント、名簿の役割大など、幹事への期待の大きさを確認し合った。が、いずれにしても「関

平成26年度 総会報告

総会・懇親会

11月16日(日) 12:00~14:30

場所 ● ホテルグランヴィア大阪 06-6344-1235 大阪市北区梅田3-1-1 孔雀の間

● 山崎智子先生をお招きして、本年の総会、懇親会を開催します。JR大阪駅と直結した交通の便のたいへん良いところです。多数のご出席をお待ちしております。(支部長 上野昌江 看護学科24回生 幹事 松田千登勢 看護学科34回生)

Table with 2 columns: Branch Name, Membership Count (Current/Previous Year). Includes branches like 関東支部 (503), 京阪神支部 (832), 九州支部 (563), etc.

平成26年度 総会&意見交換会

平成26年5月17日(土) 永国寺キャンパスで

レター通信

受章 塩田桂子さん(昭和43年卒 英文9回)が、平成23年春の叙勲で調停委員功績等により「藍綬褒章」を受章されました。

上映めざし ● 大川須美さん(昭和26年卒、女専英文2回)が、原爆映画「アオギリにたくして」の古里高知での上映に向けて、活動を始められています。

職)26年5月30日、満65歳でした。深瀬亀美先生(S52・4・1退職)26年3月21日、102歳で。10月12日、歴代卒業生が参集して、納骨と偲ぶ会を催されるそうです。

高知県支部 共々に



H26.6.28(土)、高知会館3階「飛鳥の間」で五十数名の参加を得て



目指せ地球人!南裕子学長

●まず最初に、高知県支部年会費の納入並びにご寄付に対して厚く感謝申し上げます。 さて、本年度の支部総会には五十数名の方々にご出席いただき、貴重なご意見も頂戴できましたし、楽しい交流もできました。南裕子学長にもご臨席いただき、ご挨拶で26年度には、「地球人を育てる大学への取り組み」など、法人化5年目を迎えた大学の動向も分かりました。

一方、記念モニュメント建設委員長からは29年度モニュメント建設に向けての取り組みについて報告されました。それについては、支部総会にご参加の皆様の熱い想いを数々承り、支部役員会でも検討しました。 さらに、本部理事会を中心とした発祥の地記念への鋭意努力も聴き及び、頭の下がる思いがしております。そこで、皆様の熱い想いを含めながら、誠に厚かましいお願いとは存じますが、高知県支部は「記念モニュメント制作のための募金」に、引き続き協力することとさせていただきます。高知県支部では、東部・中央・西部の三地区に分けて、それぞれの地区でご協力、ご活躍をいただいております。 議事のあと、教養講座として高知県立大学佐藤恵里名誉教授による『俄一若イ衆の芸能』と題するご講演と、佐喜浜の若イ衆による「本物の俄」の実演もあり、改めて『俄』の懐の深さや痛快さの一端を覗けた気が致しました。(支部長 原絢子 生活科学科12回生)

徳島県支部 今年も総会の年です

支部総会 10月25日(土) 11時30分~14時 グランドパレス徳島(〒770-0831 徳島県徳島市寺島本町西1-60)で 会費:5,000円 *本部または学内からの出席者の予定はありません。

●徳島県支部の皆様、災害が続いております。お変わりございませんか。 既にご案内を送らせていただいております。今年は、本部からいただいた名簿シール590人すべてにご案内を出しました。9月30日までにお返事をお待ちしています。早々にお返事くださった方、ありがとうございます。ご丁寧なコメント付きのお返事が多くあります。なかには、つながりを求めている方もおられます。

9月8日現在、出席者は数名です。しらさぎ会のよいところは、利害関係がないこと、様々な年代・職業の集団であること、若い時代に戻れることです。これからは、つながりが大切な時代です。ネットワークができます。川西支部長が県外に異動されたため、お世話役を引き継いでいます。皆様のご参加を心からお待ちしています。(支部世話役 多田敏子 看護学科19回生)

●事務局 Tel・Fax 088(847)5606 しらさぎ ●http://www.u-kochi.ac.jp/~sirasagi/ ●局員勤務(火・木・金 9時~13時) 会連絡先 ●mailは sirasagi@cc.u-kochi.ac.jp

自宅周辺散策の ささやかな幸せ

川口 順子

昭和48年から41年間勤めた間には家政学部家政学科から生活科学部生活デザイン学科への改組、そして学科廃止へと大きな変革がありました。平成24年度からは健康栄養学部の配属となり、最後の2年間は慣れ親しんだ永国寺キャンパスから池キャンパスに研究室が移りました。

退職に際して卒業生が最終講義を計画して下さり、全国各地から懐かしい方々が駆けつけてくださり多くの『サプライズ』もあって、私にとっては人生最高の日となりました(このような日を迎えることができるのは...!)。お蔭で大過なく仕事ができたと、皆様方には感謝の念に



2014年3月15日の退職を祝う会に集まってくれた社会人一年生たちと、久しぶりの和服でニコニコ!川口先生

堪えません。

在職中には退職後について深く考える余裕もなく、なんとなくなるだろうくらいに思っていました。非常勤講師を務めながら4カ月余り経ち、ようやく家事の合間に読書や散歩を楽しむゆとりができ、久々にゆったりとした時間を過ごしています。

自宅周辺の散策では、木立の

緑や草花を愛で、鳥のさえずりや川のせせらぎを耳に、ささやかな幸せに浸ったりしています。これからは、健康第一に、これまで疎かにしてきた家族中心の生活を大切に、地域社会にも目を向けた第二の人生を送りたいと願っています。末筆ですが、皆様のご多幸を心より念じております。

恩師は今

●2014年の春
退職された先生方に、近況をご寄稿いただきました。

※原稿お預かり順に掲載しています。

たとえ 大河の一滴でも

青木 晴男

昨年の今頃は大学からもう一年勤務の話があり、思案中だった。その後お引き受けしたため三月退職後も、その実感がないうまま毎日過ごしている。

約三十年の教員生活中には学内の諸「改革」があり、多くの教職員や学生の皆さんにお世話になった。また、授業外でも、二つの研究会を通じて「社会人」とも知り合えたことは私の心の財産である。

両会は既に二十年余続けられてきたが、一つは隔月で英米小説を原文輪読し自由に意見を述



べ合うもの。

もう一つは週

一で読んできた英文記事を、米人講師を交え自由英語研究会に英語で意見を述べ合うもの。両会とも教材は参加者自らが選び、対等の立場で自由に意見が



▲約20年続く米人講師を交えた時事英語研究会

行になりがちな授業と違う点で

あった。

最近、高知市を含む各地で憲法の広告や集会が取り消され、言論・集会の自由など基本的人権の軽視に繋がる事態が生じている。見解の違いを超え憲法を学び合う必要性の増す今日、何事も自由な話し合いの場が保障されてこそ生きる力に繋がると思うので残念なことである。大河の一滴の自分でも何か出来ることをしようと思う日々である。最後に、今回このような場を与えて下さったしらすぎ会の皆様には厚くお礼申し上げます。

端境期

佐藤 恵里

4月から特任教授で勤務している

ので、学生との時間がこれまでと同様、生活の中心にある。このところの原発再稼働・輸出集団的自衛権といった「国是」の下に彼らは在り、産毛が光る顔を前にして、体制に対してこれまでになかった不安と怒りが立ち上がってくる。他方、こちらの問いに対する幼い応答に焦

れて、「夏祭浪花鑑」の悪勇ではないが「年寄は気が短い、寺参りが遅くなる」など心中呟くのは、これまでもなかったことではない。

年度末に卒業生が企画してく



▲一般県民の聴講の目立った2014年2月7日開催最終講義

◀ゼミ生から出版寄贈された「この際、思いの文を先生に!」。昭和28年の第一期卒業以来、「作文」が贈られた例はあまり無いらしい



れた「退職を祝う会」と記念に拝した小冊子「この際、思いの文を先生に!」は、教師冥利に尽きるものだった。勤続35年、定年退職という大きな節目をもって、この後の老いの坂を予祝してくれた。このことを折にふれ、思い返している。

老いの坂、あるいは人生下りに輝く目標があるわけではなく、まずは片付けが専要として、日常ふとした時に愕然とする己の老化も含めて、老いは過激で且つ新鮮である。

文化学部は来年大改組して始動し、長年世話になった永国寺講義棟も今年で解体される。ともに旧と異なる新はすでに予定されているが、自分のなかで、これまでの古いものが新しく何に入れ替わるか、当面この端境期を享受しようと思っている。